



学校便り

長崎市立日見中学校

第9号

令和5年7月14日

文責 校長 山本

【平和学習】

本校では、6月から学年ごとにテーマを決めて平和学習に取り組んできました。

○各学年の取組

- 1年生：平和案内人の方による当時の様子などの説明を受けながら、爆心地公園や平和公園、浦上天主堂、山王神社などの被爆遺構めぐりを行い、そのまとめとして平和新聞を作成しました。
- 2年生：過去に日本が関わった外国との戦争（日清戦争、日露戦争、日中戦争等）について、グループで調べ学習をして発表しました。
- 3年生：第2次世界大戦以降の世界の戦争や紛争、平和を脅かすもの（テロ事件、難民問題等）について個人でまとめ、平和な社会を創るために私たちができることを考え、発表しました。



○被爆体験講話 7月10日（月）

城臺美彌子（じょうだい みやこ）さんをお招きし、被爆体験講話を行いました。6歳の時に被爆された城臺さんは、小学校の教員を退職後、もっと戦争や原爆について多くの人に伝えたいという思いから「長崎の証言の会」に入会され、それ以来、20数年以上もの間、被爆された方の証言をまとめたり、修学旅行生などに被爆遺構を案内したりするなどの活動を続けています。

また、2014年の被爆69周年の平和祈念式典では、被爆者代表として、平和への誓いを述べられました。

そんな城臺さんのお話からは、当時の生活の様子や原爆の被害等をもとに平和に対する思いが語られ、長崎に生きる者として、これからどうあるべきか、どう生きるかを考える時間となりました。



〈お礼の言葉〉 今日、私たちのために講話をしていただきありがとうございました。城臺さんの講話の中で、特に心に残った言葉は「長崎を最後の被爆地に」です。今、日見中学校では平和学習に力を入れています。各学年で調べ学習をしたり、平和への願いを込めたメッセージを紙に書き、バルーンにつけて飛ばしたりしています。今日の城臺さんのお話を聞いて、僕は原爆の恐ろしさを再確認し、これからの平和学習にさらに力を入れて頑張ります。本当にありがとうございました。（2-2 濱崎 燦士）

○アンネ・フランク パネル展

皆さんは、アンネ・フランクという女の子を知っていますか。

「アンネの日記」といえば知っている人も多いのではないのでしょうか？

第二次世界大戦中に、ヨーロッパでナチスによるユダヤ人迫害から逃れるために、2年以上を狭い隠れ家で生活し、15歳で命を終えました。

過酷な生活の中でも心を強く持ち、日記を書き続けたアンネ・フランクに出会えるパネル展を日見中で行えることになりました。

来週の水曜日に各学年で見る時間をつくっています。

このパネルはオランダから日本に送られたもので、なかなか見ることができないパネルです。パネル展を通して、当時の様子や彼女の日記から、同じくらいの年齢である日見中の生徒の皆さんに、平和について深く考え、創造し、そして広く日本中へ、また世界へと発信できる人になってほしいと願っています。

パネル展当日の朝に事前学習として動画を見てもらうことを計画していますが、1階ふらっとルーム前にパネル展の紹介と関連する図書を展示しています。図書は、ぜひ手に取って見てみてほしいと思います。

戦争による長崎や日本の被害とヨーロッパの被害を学びながら、平和について考える取組になるように願っています。

〈7/14 お昼の放送による紹介〉

アンネ・フランク パネル展

期間：7/19(水)～7/25(火)

※土日を除く 9時～18時

場所：日見中学校

4階生徒会室とその周辺

保護者、地域の皆さん、

どうぞ学校までお越しください。